

令和 8 年 2 月 2 7 日

株式会社博報堂

永井 一也

委嘱業務完了および実績報告書

資源エネルギー庁「令和 7 年度エネルギー需給構造高度化対策調査等事業（エネルギー教育推進事業）地域におけるエネルギー教育実践事業」における令和 7 年 6 月 2 3 日に委嘱された内容について、委嘱業務の完了と実績を以下の通りご報告いたします。

・委嘱概要

特別委員氏名	永井 一也
委嘱期間	令和 7 年 6 月 3 0 日～令和 8 年 2 月 2 8 日
実践タイトル	地域におけるエネルギー教育実践事業

・実施事項

仙台市立荒巻小学校第 4 学年の実践 「電気はどこから」 「電気の通り道」 「様々な発電方法の長所と短所」 仙台市立鹿野小学校第 4 学年の実践 「くらしの中のエネルギー」 エネルギー教育研修会 1 月 2 9 日 山下宏文先生の事務所でエネルギー教育についての質疑応答 1 月 1 1 日 山下先生を招聘しての研修会 「エネルギー環境教育の理念」 2 月 1 5 日 山下先生を招聘しての研修会 「エネルギー環境教育の歩みと今後の課題」
--

・成果

エネルギー環境教育は 6 年間のカリキュラムを構築し、取り組むことが必要であると考える。しかし、現状ではそれを実践できる学校は少ない（実践事例は小学校 2 校）。そこで仙台エネルギー環境教育推進研究会が作成した 6 年間のカリキュラムを参考にしながら、それぞれの学校の実情に合わせて、実践可能な部分を切り取り行った。荒巻小学校の実践では、コンセントから変電所、さらに発電所へとたどり、発送電の学習を体
--

験的に学び、様々な発電方法を知り、その長所と短所を知り、自分自身の考えを深めることができた。エネルギー環境教育のねらいである「持続可能な社会の構築をめざし、エネルギー・環境問題の解決の向け、生涯を通じて主体的かつ適切に判断し行動できる人間を育成する」に合致した実践を行うことができたと考える。

・ 今後への課題

今後も6年間の系統的なエネルギー環境教育のカリキュラムの実践を念頭に置きながらも、それぞれの学校の実情に合わせてながらエネルギー環境教育の実践を進めていきたい。大きな前進はなかなか望めないのが現状ではあるが、実践を積み重ねることによってその必要性・重要性、また、子供たちにとって有効かつ有意義な学習であることを広めることができるような活動を進めていきたい。